

羅 針 盤		
評価対象	評価項目	具体的数値項目
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①類型・コース制の特色を生かした教育課程に、生徒の80%以上が満足している。 ②チャレンジタイムⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容に、生徒の80%以上が満足している。
	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	①「授業が分かりやすい」と、生徒の80%以上が答えている。 ②授業中に、「活動しながら学習したり、学習したことをもとにして考えることがある」と生徒の60%以上が答えている。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	①単位未修得者は、全生徒の5%以下である。 ②「基礎科目」によって基礎・基本の知識が身についたと感じている生徒が80%以上である。 ③資格取得に向けた指導に生徒の80%以上が満足している。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	①問題行動の発生件数及び退学者数を前年度以下にする。 ②服装頭髪指導のチェック者の延べ人数を前年度以下にする。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	①いじめに関するアンケート年間5回、それに伴うフォローアップを年間5回実施する。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	①欠席率及び遅刻率を前年度以下にする。 ②交通事故件数を前年度以下にする。 ③部活動の加入率を60%以上にする。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	①「板倉進路ニュース」を月2回発行し内容の充実を図る。 ②「ドリカムプラン」に生徒の80%以上が満足している。 ③生徒の将来の志望について理解している保護者が、70%以上である。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	①自分の適性を理解している生徒が、60%以上である。 ②進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。 ③100%の生徒が、「目標とした進路を実現できるようにする」。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	①PTA総会、授業参観、学年保護者会等に参加している保護者が、のべ50%以上である。 ②本校情報誌「板倉高校かわら版」を年2回以上発行している。 ③学校のwebページを月2回以上更新する。保護者メールも活用し、随時情報を発信する。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	①80%以上の教員が、教科等の指導場面においてICTを活用し、個別最適な学び、協働的な学びを追究した授業を実践する。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	①校務分掌・学年等においてICTを活用した業務改善を進め、校務分掌・学年等が実施する諸調査等の60%以上をペーパーレスで実施する。

方 策
①類型・選択科目の内容を生徒に十分説明し、生徒のニーズを達成する類型・科目選択ができるようにする。 ②それぞれの目標を示して、生徒一人一人が積極的に活動できる内容に工夫する。
①研究授業・授業研究・授業アンケートを、計画的・効果的に実施する。 ②生徒の興味関心を念頭におきながら、ペア学習やグループ学習を取り入れ、主体的で深い学びになるよう工夫する。
①到達目標を明確にし、授業と補習につながりを持たせ、学習の習慣化を図る。 ②教科内で「基礎科目」の内容や授業形態について十分検討し、統一歩調で指導する。 ③個々のレベルに応じて目標を設定し、より高い級の検定に挑戦できるよう学習させる。
①学校全体で生徒の情報が共有できる体制を整え、モラル向上の行事を計画的に実施する。 ②年間計画を立てて、分掌や学年と連携協力して実施する。
①未然防止、早期発見早期対応に向け、分掌と学年、スクールカウンセラーとの計画的な教育相談体制を図る。 ①保護者の協力を得ながら、段階的指導を行う。 ②交通安全教室、HR等でルールを遵守させ、登下校指導を定期的に行う。 ③学校全体で実態を把握し、活動しやすい環境を整備する。
①進路指導部が交代で担当し、計画的に発行する。 ②計画に沿って実行し、事後の反省を生かして改善する。 ③保護者との関係を密にし、三者面談等で個々の進路に関する情報を提供する。
①適性検査や体験学習、面談等で自己理解を深める。 ②個々の目標とそれに合った具体的な対策を示し、自ら学ぶ意欲を高める。 ③入社試験や入学試験に合格するために面接練習や模試を計画的に設定する。
①多くの保護者が参加できるような内容に設定し、情報を発信して参加を促す。 ②「かわら版」やそれ以外の情報を広く発信する。 ③学校行事やチャレンジタイム等の情報を発信し、教育活動を広く理解してもらえるように努める。
①教科等の指導場面においてクローム・ブック等を積極的に活用し、学力・学習意欲面で多様な生徒に応じた授業展開を行う。 ①校務分掌・学年等が実施する諸調査等をGoogle・フォーム等を活用して実施し、分析結果を適切にフィードバックし、その後の業務改善に活かす。

第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
A	A	81%の生徒が満足している。今後も生徒の進路希望等に応じた教育課程を編成する。	A	A	95%以上の生徒は満足している。今後新学習指導要領を踏まえた教育課程を編成する。
A	A	89%の生徒が積極的に取り組んでいる。内容等の検討も含め、より実態に応じたものとする。	A	A	96%の生徒は積極的に取り組んでいる。より深化発展させるよう改善に努める。
A	A	81%の生徒が肯定的である。エバーサルサイを意識した授業展開を学校全体で共有する必要がある。	A	A	エバーサルサイに配慮した授業改善を今後も継続し、生徒が分かる授業を共有する。
A	A	70%の生徒が授業中に主体的に活動している。より主体的・対話的で深い学びとなるようさらに授業を工夫する。	A	A	学んだことを自分で考え活用する場面をより設定し、自律した学習者となるよう支援する。
A		学習の習慣化や生徒の実態に応じた授業実践を行い、学習支援を継続する。	A		授業での支援や学習方法を具体的に伝え、生徒の適性に応じた指導を行い充実を図る。
B	B	保護者の93%が基礎科目の授業に満足している。生徒の79%が基礎が身についていると感じている。今後も継続する。	A	A	86%の生徒が基礎基本が身についたと回答している。今後も継続して基礎学力の定着を図り、活用まで支援する。
B	B	79%の生徒が満足している。資格取得率向上にも傾注する。	A	A	資格取得を通じた学習意欲を高める指導を継続する。
B		問題行動数は減少傾向にある。今後も生徒一人一人に合った適切な指導をさらに進める。	A		生徒のニーズに合わせた柔軟な対応に努める。問題行動、退学者の数が減少傾向で落ち着いている。
A	A	チェック者は減少傾向。今後も連携し、継続的な指導を行う。	A	A	生徒の実態に合わせた対応をし、生徒が主体的に改善できるようにする。
A	B	今後もアンケートや面談、日常の観察からいじめを見逃さない体制を整える。	A	B	悩みを抱えている生徒の早期発見に努め、当該生徒に対し継続的に様子を観察する。
B		欠席率、遅刻率ともに増加傾向。保護者との連絡を密にし迅速な対応を行う。	B		遅刻を主体的に改善できるように、諦めずに指導する。不登校生徒に対する柔軟なサポート体制の構築。交通関係の規則や情報を継続して生徒、保護者に提供する。交通安全教室の実施。
A	A	交通事故は減少傾向。啓発の機会を多くし、登校指導やマナーアップ等の街頭指導を定期的に行う。	A	A	生徒が自発的、主体的に活動できるよう配慮する。
A	A	部活動参加者は増加傾向。コロナ禍での活動の工夫を進める。	B	B	ドリカムプランの内容、進路状況について記載し、保護者へ見せるよう指導する。
B	B	生徒の進路意識を喚起する内容を継続的に発信する。	B	B	実施内容について、学年と調整しながら実施できている。
A	A	計画に沿って実施できている。更に内容を改善する。	A	A	生徒の進路に関する情報を集め、三者面談等で確認し、進路希望の実現を目指す。
A	A	三者面談等の機会を利用し、情報の共有に努める。	A	A	適性検査や学力テスト等の振り返りの指導を充実させる。
A	A	求人票の一覧を作成し、教室配布するなど情報発信に努める。	A	A	求人票の見方の講話を実施し、早い段階で公開する。
A		面接練習の計画・参加等、生徒の積極的な参加を促す。	A		教材を刷新し、面接指導を充実させる。
B	B	広報活動に力を入れ、参加を呼びかける。総会時の行事を精選し、魅力あるものとする。	B	B	PTA総会の内容について、役員等からの意見を元に充実させ、形骸化を避ける。
A	A	外来者(特に進路関係者)に対して、かわら版を配付する。	A	B	かわら版の掲載内容の見直しと充実を図る。
A	A	お知らせメールを必要に応じて活用する。また、webページの更新を適時に行う。	A	B	ホームページを定期的に見てもらえるよう、生徒・保護者向けにさらに宣伝したい。
A	B	教職員間でICTを活用した指導の実践事例を共有し、生徒が使えるように試行錯誤していく。	A	B	引き続き、教職員間でICTを活用した適切な指導の在り方について、校内研修等を通じて共有し合う。
A		教職員間でICTを活用した業務改善の実践事例を共有し、引き続き校内研修等を実施し、学校全体で試行錯誤していく。	A		引き続き、教職員間でICTを活用した適切な業務改善の在り方について、校内研修等を通じて共有し合う。